

北海道議会議員  
Go forward! 北海道  
たけだ 浩光 道政通信 ひろみつ

所属会派：民主・道民連合

住みやすい『西区』、そして『北海道』をめざします!

発行：たけだ浩光政務事務所 〒063-0003 札幌市西区山の手3条1丁目3-1 ☎011-624-8030 FAX 011-624-8031



# ワクチン接種の **5W1H** は? 自治体は不安だらけ WHY以外はわからない?

When  
Where  
Who  
What  
Why  
How

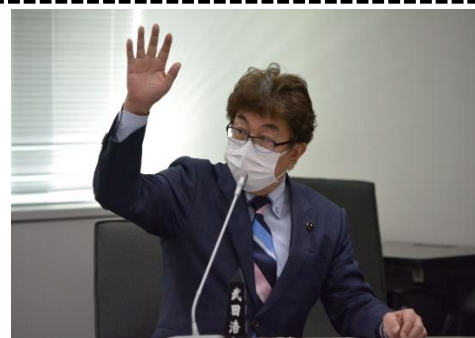
☆2021.2.2「保健福祉委員会」開催☆



2/25開会予定の、今年最初の第1回定例会を前に「保健福祉委員会」が開催され、長引く感染対策と集中対策期間内での北海道としての認識や課題について質問しました。

## ① ワクチン接種体制について

ワクチン接種体制については、国段階において相当混乱している。厚労省が自治体向けに2回目の説明会を実施したが、道の進捗状況について質問した。業者の担当地域や優先接種の体制整備、対象者数・希望者数、接種場所などの調査・検討中との答弁であった。一定やむ負えない状況も理解するが、一番困るのは結局各市町村である。国が負担する2,070円/回の妥当性への不安もあり、財政面を含め道は市町村の声を積極的に聞き、国に対して必要な措置を求めるよう指摘した。



前回の委員会に引き続き質問をする武田道議

## ② PCR検査体制について

先日、札幌市は、病院や支援施設等に勤務する医療従事者や介護職員らに、月1回のPCR検査を半年間実施すると報道されたが、私は札幌市以外でも当然同様の措置が必要と考えることから、道の見解を伺ったところ、「感染状況を踏まえながら、検査対象について柔軟に対応する」と、明確な回答は残念ながら示されなかった。ワクチン接種が実施されるまでは、定期的なPCR検査を実施し、クラスターを未然に防止する努力をすべきであることから再検討するよう指摘した。



## ③ 集中期間対策について・・・(1)道内の感染状況について

現在、道内の感染状況は、若干の減少傾向と見て取れるが、思ったようには下がり切らない状況と思うが、これに対する道の分析を伺ったところ、「減少傾向にあるものの、全道各地で感染が広がっており予断を許さない状況」との答弁であった。私も本当に予断を許さない状況と思う。ならば...

## ④ 集中期間対策について・・・(2)今後の感染対策について

前回の委員会でも指摘したが、3月・4月は異動期となるため、その時までにはあらゆる数値を下げるのが肝要である。今後の感染対策への取り組みについて伺ったところ、未だ予断を許さない状況であることから、現在の集中対策期間の取組の徹底や専門家の意見も踏まえ、減少を確かなるものとするため、対策に万全を期す」との答弁であった。私は、いずれにしても、道も議会も到達点を共有し、議会としても会派を超えた感染防止のための努力に全力を注がなければならないと考えます。

2月25日からの第1回定例会では、未だ措置されない検査技師の特勤手当課題や業務の限界を超えている保健所や医大の機構課題（人的措置など）などを含め、ワクチン接種体制が普及するまでのウィズコロナ下での施策・方針を追及します。

こんなご意見・ご質問をいただきました

窓口負担はどうなるの？

# 後期高齢者医療費

この道政通信を郵送させていただいている方からお電話をいただきました。

「後期高齢者医療費の窓口負担を、1割から2割へ増額する所得基準は、当初、自民党は170万円以上と言っていたが、公明党が240万円以上と主張し、結果、200万円以上に落ち着いた。これは公明党のおかげではないか。立憲民主党をはじめとした、野党はどうなっているのか。」

## 報道されない立憲民主党の主張

確かに、マスコミで報道されていることだけを見れば、2022年後半から年収200万円以上（単身世帯）の後期高齢者の医療費窓口負担は、2割になるかのように錯覚してしまいます。昨年の12月に政府案としてまとめただけです。今年の2月5日には、これらのことを含んだ医療制度改革関連法案を閣議決定し、今開会中の通常国会での成立を目指しています。

立憲民主党の主張は明確です。政府案が出された12月10日すぐに、容認できないとの見解を示しました。その理由は「コロナ禍にあってすでに受診抑制が顕著となっており、感染拡大の収束及び社会不安の解消がされない中で医療費の窓口負担を引き上げれば、その受診抑制に拍車をかける。立憲民主党としては、少なくとも、今般の後期高齢者の窓口負担引き上げによって軽減されると試算されている現役世代の負担880億円程度については、後期高齢者の負担増によってではなく、公費で軽減されるべき

であると考えます。」これが、マスコミでは報道されないのです。

当時の民主党政権時、2012年6月に社会保障と税の一体改革において、民主党・自民党・公明党の三党合意がなされました。団塊の世代の方々が75歳以上になってくる2022年以降の社会保障のため、2015年までに段階的に消費税を10%までに引き上げるという内容でした。しかし、その後安部政権になり、自・公政権の都合により消費税引き上げを延長し、現在の状況を生み出しているのです。75歳以上の高齢者のほとんどが、収入の全てを年金で賄っていることを考えれば、たとえ所得基準を設けたとしても2割負担を強いることは容認できないはず。また、年を重ねることによって、病院で体調管理、

自・公政権の  
都合主義

身体メンテナンスをしなければならないのは当然です。私たちは後期高齢者医療費の窓口負担引き上げには断固反対していきます。

〒063-0003

西区山の手3条1丁目3-1林ビル2階

TEL:(011)624-8030

FAX:(011)624-8031

e-mail : info@takeda-hiromitsu.com



たけだ浩光オフィシャルWebサイト

たけだ浩光

検索

オフィシャルWebサイトで道政通信のバックナンバーがご覧になれます



### たけだ浩光プロフィール

- 【すまい】西区西野（在47年）  
1960年 江別市生まれ  
その後、すぐ札幌へ
- 1973年 札幌市立二十四軒小学校 卒業  
1976年 札幌市立手稲東中学校 卒業  
1979年 北海道立札幌西高等学校 卒業  
1980年 北海道大学水産学部 中退  
1985年 北海道大学医学部附属  
診療放射線技師学校 卒業  
1985年 札幌医科大学附属病院勤務  
2019年 北海道議会議員 初当選